

大代町同和教育研究指定を受ける

(順番制による)

公民館運営委員長 田辺 孝

現在、大田市では「差別をしない、させない明るい町づくり」を目指して同和教育を全市を上げて行っています。大田市教育委員会でも学校教育の重点課題の一つとし、同和教育の推進を上げており、平成元年度・平成二年の二か年にわたる研究推進指定校、ならびに指定公民館として、大代小学校・大代中学校・大代公民館が決まりました。

私たちは基本的な人権を保障した憲法 の精神と、同対審答申の理念に基づき同和教育の解決が市民一人ひとりの問題であるという認識のうえに立って、自らの意識の变革に努めなければなりません。

大代町公民館として、そうした観点から、地域の実態に即した地域ぐるみ

の同和教育を主題として、推進を図ってまいりたいとおもいます。

私は学校に勤務していた関係で差別の歴史の講演会・研修会で悲しい出来事を多く知りました。

「いわれない差別」を受け続けた人たちのくやしきや怒りを思つて、「差別してはいけない」と心から思いました。その中でいまだ「寝た子を起すな」、「逆差別」、「時代と共に忘れられる」という考えが頭の隅にありましたが、最近是人間が人間らしく取り扱われなくてはならない。つまり人権問題とはいつても正面から立ち向かつて生きていかなくてはならないと思つようになりました。だが、私という人間の弱さなのでしょう。誰に対しても平等に、敬愛の心で接しなくてはいいけないと頭の中ではよく理解し、心に強く思っているつもりでも、ふと気がつくこと反省することばかりです。傲慢な気持ちを捨てなくてはなりません。

これは平素から人を大切にしている心が本物になっていない証拠です。いつか本物になる時が来るでしょうか。自信

がありません。だからこそ、生涯勉強を続け、心を洗い続けなくてはならないと思つています。

これからの二年間、同和教育の学習が展開することでしょう。学習によつて、全然知らなかった人も正しく知るようになり、無関心であった人も関心をもち、偏見を持つていた人もその誤りに気づき、同和教育が特別な問題で芽生え広がるよう共に努めたいものです。今後、学校同和教育の推進と相まって、この事が大代町の生き生き明かるとい町づくりになるものと信じます。

同和教育を推進して行く上、いろいろな面での調査等が実施されると思います。その節は何卒よろしくご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

Ⅱ 都市交流 Ⅱ

故郷の歴史を探る

— 大家郷の起り —

愛知県 一宮市 藤井 直



----- 中略 ----- 二月十二日

先日は大代町の広報を贈って頂き、若き息吹きを感じ、思い出さされました。

をお取り上げ戴き、有難うございました。厚く御礼申し上げます。

私につきましては兄よりお聞きの事と存じますが横道村出身・母の里福田村で生れ、実父の兄である部治村の本家の嗣子となった私、幼少年時代には祖母が現在の御当地横田より嫁しており、里帰りに連れられて横道に來た事などが思い出されます。大家の盆踊りにもよく來たものでとても懐かしく、また祖母は徳川時代の生れで、帰る道々昔の歴史的な話をしながらその所在を教えてくれたものであります。その育くみも大きかったものとこの頃思ふ次第です。

次に未完成のようですが、初頭に記す為の文章の一部でありますを送らせて戴きます。

是は徳川末期から明治維新が、現代社会への発展をもたらした骨格的な基本であるとして、世界各国が日本の研究への主点としてゐることなどから、吾が生れた郷土の徳川期から明治への旧著書や著書名を調べ出そうとしたもので石見の國のみではありませんが、当時の

「雁形」と心算形成の基本を位置づけて探し出そうとしているものであります。読んで頂けたら幸いと存じます。私はサラリーマンを退職後、日雇い作業員として働いている現在、毎日が多忙で御返信が遅れた事を謝し乍ら、乱筆をしたためた様な次第です。

※大家郷の起り、つたないものではあります。是は私の基本で「育みを基本」とし、特に幼少年時代の形成・初期の育み・故郷を忘れてわれらの存在はない、そして故郷、郷土の土地柄の過程を知る」によるものであります。

三月三十日(二信)

さきの「思惟考」につけて私なりに記した古地図を作製致しましたので御送り致します。

入学式



例年より早く桜の花が満開に近い去る四月五日(小学校)六日(中学校)何れも新しいピカピカの粧いで父兄同伴の入学式が行なわれました。来賓の

お祝いの言葉や新しく着任の校長先生のお話に夫々入学の我が子の晴れ姿に会場一ぱい感動が溢れていました。

小学校新入生六名、只今 四十七名
中学校 “ 八名 ” 十六名
頑張ってください。

春の交通安全運動

「安全は人と車のゆずり合い」



期間中、自治会、安全協会、交対協婦人会、交通安全母の会など地域の組織を挙げて御協力を頂き、大代町では一件の事故もなく終了致しました事はご同慶に耐えませぬ。

然し全国的には期間中にもかかわらず死亡事故、飲酒運転などの事故が相次ぎ、昭和五十一年以来の増加と発表されていきました。

「一瞬の油断が一生の怪我を生む」
地域内で期間中の某日、車に同乗して文書配布の時、カーブミラーのある広いカーブで左側を走行中、相手方の車が内側には入り込み、接触こそなかったがほんとうにヒヤリ・・・広いカーブでミラーもあつたんですヨ。